

アークフラッシュ施工された老人施設からは5年間インフルエンザの発症が報告されておりません。

<< 通販開始 >> <http://homepage2.nifty.com/arc-clean/>

<< 鳥インフルエンザ情報 >>

茨城県は三十一日、鳥インフルエンザによる鶏の移動禁止区域の解除に向けた最終検査で、小川町の養鶏場「キミシマファーム」の鶏からウイルス感染歴を示す抗体陽性反応が出たと発表した。ウイルスは分離されなかった。

県によると、同養鶏場は移動禁止区域内。同町の別の養鶏場で抗体陽性反応が出た直後の八月二十八日に実施した検査では陰性だったが、今回、検査した百七十羽のうち四十羽で陽性反応が出た。

畜産課は「八月の検査では陽性の鶏がたまたま検体から漏れたのではないか。その後新たに感染したとは考えていない」としている。

キミシマファームは十三の鶏舎がすべて開放型。飼育されている鶏約八万二千羽には三十一日、処分命令が出された。

県は今月十三日、処分対象としていた二十六養鶏場で計約百四十八万羽の処分を終え、移動禁止区域解除に向け確認検査を進めていた。

今回の陽性確認を受けて、これまで十一月中旬としていた解除時期のめどを同月下旬に延期した。

世界で数千万人の死者を出したスペイン風邪(一九一八 - 一九一九年)は、突然変異によって人への感染力を持った鳥インフルエンザが原因とされる。

新型に備え、厚労省は本年度から五年で二千五百万人分の抗ウイルス薬タミフル備蓄を計画している。しかし、国と自治体が備蓄するはずの五百万人分はまだないに等しい。

さらに怖いのは、**ベトナムの患者からタミフルに耐性を持つウイルスが検出された事実だ。**万が一にもタミフルが効かないとなれば、国際対応態勢そのものの基盤が崩れかねない。事態は予想以上に悪化している可能性もある。

新型インフルエンザは手をこまねいていると、数週間で世界を一周するといわれる。

今冬はよく手を洗い、うがいをする、鶏肉は加熱して食べる、過労を避ける、と供に室内へのアークフラッシュ加工により安全性を高める手段によってインフルエンザ感染防止の基本に立ち返って乗り切りたい。

アークフラッシュ施工の代金は、インフルエンザによる欠勤などの企業ダメージに比べれば、遥かに安価である。しかし、企業の窓口は、施工による袖の下に着目してしまい、

人命守護、自社環境の防衛といった本質を思考できない人間も増えているのが現状だ。

アークフラッシュによる予防はあらゆるウイルス、細菌に耐性を作らせないで撃退する事にある。抵抗力の弱くなった老人の施設で、インフルエンザが発生しない、させない原因で有る事も過去数年間の実績を見ても検討に値するのではないだろうか。

< < 施工受注予定 > >

- 九段クリニック 4500 平方メートル
- 阿野 鉦二 邸
- 土田早苗(女優) 邸
- 大成病院
- 中国北京ホテル 20000 平方メートル
- 菱和ビル
- 平塚貸し事務所
-

*** 発行責任者: 株式会社アークフラッシュ本部**

笹川 透

03-5337-7275 FAX 5337-7465 honbu@arc-flash.com

1号～28号までを配信希望の方はメールにて申込ください。